

畿央大学後援会だより

発行：畿央大学後援会
2015年9月1日
第14号



ごあいさつ

畿央大学後援会 会長

清水 隆平

厳しい暑さが続いた夏が通り過ぎ、心地よく吹く風からは新たな活動に挑戦したくなる応援

歌が聞こえてきます。

この季節はキャンパスのツツジや他の木々が次の春に大きく成長するため、広げた根から養分と水分を一杯吸収し、その準備を一生懸命行っているようです。

先日、長崎の外海（そとめ）と呼ばれる地を訪問しました。東シナ海に面するキリシタンの里から見る海の風景はあらゆるものを包み込む力が感じられました。その五島灘に面して「遠藤周作文学館」が建っています。

遠藤氏は灘中に入学されるのですが成績が悪く、秀才の兄といつも比較されながら育ちました。そんな氏に対しお母さんは「お前は一つだけいいところがある。それは文章を書いたり話をするのが上手だから小説家になったらい」「今は他の人たちが馬鹿にしているけれど、やがては自分の好きな事で人生に立ちむかえるだろう」と褒めるのです。それを真に受けて小説家になろうと思うのですが、その後偉大な文豪となり多くの人に愛される事は皆様もご承知の通りです。

このように若い世代を導くのは周囲の人達の役目だと言われています。木々が目に見えない所で養分を貯め成長していくように、学生達が大きく育ち社会で活躍するよう、後援会はサポーターとして様々な提案を積極的に行うべきだと考えています。今後ともご協力の程どうぞ宜しくお願いします。

後援会の皆様へ

学校法人冬木学園 名誉理事長
畿央大学 学 長

冬木 智子



平和な大空のもと、絵に描いたように緑あふれる高台に堂々と立つ畿央大学は、今日も学生たちを静かに、暖かく包み込んでおります。

保護者の皆様には、愛情を込めて育ててこられた我が子の日常に、細やかな思いを寄せておられる事とお察し致します。

全国各地より本学へ、将来の夢を抱いて入学してきた学生達は、確かな学識と実力を体得するため、ご家族のみなさまに思いを馳せつつ、懸命に努力を続けているところでございます。

学生達は学部・学科を越えてよき友を得、学識高い教授陣のもと、人格と専門性の向上に励んでおりますので何卒ご安心下さいませ。もとよりその努力の背景には愛情に満ちた保護者のみなさまのご支援があることは申す迄もございません。

建学の精神である「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」を学生個々人に合った姿で体得させ、実践させていく日々を重ねて、心技を兼ね備え真に社会の役に立てる人材を育成することが畿央大学の使命でございます。

今後とも、教育研究および社会貢献に教職員一丸となって努めてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

保護者の皆様におかれましては折をみて、この大和の美しい高台に立地する畿央大学へ、是非お運び下さいませようお待ち申し上げます。

CONTENTS	ごあいさつ.....	P 1・2	健康科学部 健康栄養学科.....	P 8
	保護者懇談会・後援会総会.....	P 3	人間環境デザイン学科.....	P 9
	基調講演(要旨)「学生の自立と家庭の支援」		教育学部 現代教育学科.....	P 10
	教育学部教授 島 恒生.....	P 4・5	担任からのメッセージ.....	P 11~14
	学科のページ		保護者アンケートQ&A.....	P 15
	健康科学部 理学療法学科.....	P 6	第13回畿央祭・授業日カレンダー.....	P 16
	看護医療学科.....	P 7		

畿央祭 (10/17・18) 参加会員に 補助が出ます

畿央祭が10月17日(土) 18日(日)の二日間にあわせて開催されます。学生の実行員会が4月からたちあがり、すでに着々と準備を進めています(関連記事16頁)。その様子は、本学ホームページでご覧いただけます。後援会では、畿央祭に参加された会員の皆さまに金券1,000円を補助しています。9月末ごろに詳しい畿央祭案内チラシ等とあわせて当日の引換券を送付します。畿央祭に参加され、日ごろとはまた違った学生の一面を発見されることも多いようです。皆さまのご参加をお待ちしております。



情報とその扱いの理解を深めるために

学校法人冬木学園 理事長
畿央大学 副学長

冬木 正彦

後援会の皆様には、畿央大学の教育活動に対し日頃から温かいご理解とご協力をいただき有難うございます。

さて、情報通信技術の発展とその社会への普及の速さは驚くばかりです。日常生活の中でスマートフォンの利用は、特に学生の間で際立っています。メールやLINEなどのネットコミュニケーション、検索による情報収集などの便利なツールとして使われています。しかし社会ではネット利用に起因するトラブルや組織からの個人情報漏えいなどが、相次いで報道されています。

ネット利用やツールは、情報通信技術の発展に伴い今後も引き続き急速に拡大し進化するので、情報やその扱いに関する理解を深め、トラブルを未然に防ぐことは大学においても取り組むべきことです。

畿央大学では、小冊子「情報倫理ハンドブック(著作/制作: noa出版)」を学生・教職員に配布しています。そこには、情

報を正しく扱うことや情報の安全性を高めることが、事例も含めて分かりやすく解説されていますので、ご家庭においてもご覧ください。

1回生の必修科目である「情報処理演習」では、著作権や個人情報の扱い、メールやネットコミュニケーションのマナーやルールなどをここ数年来、取り上げてきました。ネット上においても「他者への配慮」はトラブルを防ぐ有効な手段の一つです。

個人情報や大切なデータの安全性を高めるためには、情報処理の仕組みの理解が必要です。昨年度から始めた新生入生にタブレットPCを貸与する「学びi(合い)トライアルプロジェクト」の中で「情報処理演習」では、自宅での事前学習と準備を前提として、自ら試しながら仕組みが分かる授業を行っています。詳細はネット上で、「マイクロソフト 事例 畿央大学」で検索してみてください。

畿央大学では、社会の高度情報化に対応して情報環境の整備を進めています。これにより、健康と教育の分野での専門教育がさらに充実することを期待しています。後援会の皆様のご理解と温かいご支援を引き続きお願いいたします。



求めよ、さらば 与えられん

健康科学部長
健康科学研究科長

金子 章道

畿央大学の教育に対し、後援会会員の皆様からは日頃より深いご理解と多大なご支援をよせていただいていることに深く御礼申し上げます。

畿央大学ではすべての専任教員がオフィスアワーを設けております。オフィスアワーとはその時間必ず研究室に在室していて訪ねて来る学生への対応を最優先させる時間です。私は月曜日のお昼から金曜日のお昼まで(大学に勤務しているすべての時間)をオフィスアワーにしており、研究室の入口のオフィスアワーの表示には「いつでもどうぞ」と掲示しています。授業や会議で不在の時を除き学生が訪ねて来た時にはやりかけの仕事を中断してでも学生と話をすることにしております。

標題の言葉は新約聖書のマタイによる福音書第7章7節にある文章の一部です。現代語訳の聖書では「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」となっています。もともと信仰を求めるものに対する聖書の言葉ですが、大学教育の考え方も一致しています。学生は与えられるのを待つのではなく、自ら積極的に求め学んで欲しいと思います。われわれ教員は求められればいつでもそれに応じる心構えで待機しているのです。

共に生きる 時間と空間

教育学部長

前平 泰志



本年4月から教育学部長を務めることになりました。本学部は創立されてまだちょうど10年目と聞いていますが、先に創設された健康科学部とともに、この間着実に発展しています。

このような躍進が続いている学部の長を務めることは、誇らしくもあり、同時に身の引き締まる思いでいっぱいです。微力ですが、私なりに全力を尽くすつもりでおりますので、どうか温かく見守っていただければ幸いです。

ところで、赴任して、最初に驚かされたことがひとつあります。それは、見知らぬ学生であっても、廊下で私とすれ違う時には、学生のほうから必ずといってよいほど、「おはようございます」「こんにちは」と声をかけてくれることです。

このことは、私にとってとても嬉しいものでした。お互い何気ない挨拶を交わすことから、私たちが、共に生きる時間と空間の中で教え、学んでいるのだという実感が、ひしひしと湧いてきたからに違いありません。

それは、本学の創立の精神「徳をのばす、知をみがく、美をつくる」にも一脈通じていくものがあるように感じています。

第10回 保護者懇談会を 開催しました。



7月4日(土)午後1時より保護者懇談会を開催しました。あいにくの空模様でしたが、各地から約350名のご参加をいただき、過去最高の参加者数となりました。

全体会に先立って行なわれた個別相談会では、保護者の皆様から将来の進路のこと、今の学生生活のことなど、さまざまな相談をいただきました。

冬木記念ホールで行なわれた全体会では冒頭に冬木副学長、清水後援会会長よりご挨拶があり、引き続いて、教育学部現代教育学科の島恒生教授による基調講演『学生の自立と家庭の支援』(4、5頁に要旨掲載)



をお話し頂きました。学生の自立のためには「信じて、認めて、任せる」というメッセージが伝わった有意義な内容で、「子どもの人生を作るのは子ども自身!! 保護者は子どもの自立の応援団!! 胸にジーンとききました。」「信・認・任を忘れずに、プラス思考・聴き上手になるよう、がんばりたいと思います。」など、保護者の皆様からたくさんの感想をいただきました。

全体会終了後は学科別に分かれ、会場を移して、各学科の教員から学修内容や普段の学生生活についての説明を行ない、「自宅で子どもと話す内容が増えました。」「4回生までの流れがよくわかりました。」「授業だけでなく、積極的に色々な経験をして、精神的にも成長してくれたらと思いました。」などの感想を頂きました。学科別説明会のあとは、それぞれの学科が使用する実習室・実験室などをご覧頂きながら懇親会が開かれる新食堂に移動して頂きました。最後に昨年完成した新食堂で懇親会を開

催し、保護者の皆様と教職員が交流を深めました。多くの保護者の方から評価をいただいている“学生と教員の距離がとてに近い大学”ということを改めてご確認いただけたようです。

保護者の皆様のご意見を参考に、より有意義な保護者懇談会を企画してまいります。また秋の畿央祭では、保護者向けの一般企業就職や教員採用試験の状況の説明会も予定しています。

これからも、多くの保護者の皆様のご参加をお待ちしております。



平成27年度 後援会総会を開催

保護者懇談会の全体会において、畿央大学後援会の総会を開催しました。

はじめに役員会を代表して清水会長からご挨拶をいただき、その後、6月27日に開催された役員会にて検討された議案について審議に入りました。

まず、平成26年度の事業報告、監査報告が審議され、承認されました。つづいて、平成27年度事業計画、予算案が審議されました。事務局より、今年度の事業計画・予算の主な内容として、昨年度から後援会の事業として開始したキャンパスの植栽維持管理については、引き続き年間計画を持って維持管理と植栽の補充などをすすめること、定員増に伴って、健康診断等への補助、畿央祭での会員への金券補助予算を増額すること、来年度の学園70周年に向けて周年

事業積立を増額することなどの今年度の特徴が説明されました。その他の学校行事助成費、教育活動助成費、就職活動助成費、学生の自主活動等に対する助成は昨年の水準を維持するものとする予算案が報告提案され、審議の上、事業計画・予算案は承認されました。

役員の改選では、役員会で推薦された清水会長をはじめとする13名の役員と4名の顧問が承認されました。本年度の後援会役員は別表のとおりです。会員の皆様のご協力を得ながら

●平成27年度 畿央大学後援会役員

役職	役員氏名	新・再	学生の所属等
会長	清水 隆平	再任	人間環境デザイン学科3回生
副会長	南 正美	再任	理学療法学科3回生
副会長	竹中 秀司	再任	現代教育学科2回生
会計	前垣 昇司	再任	人間環境デザイン学科2回生
会計	小松 美佐	再任	学生支援センター職員
書記	前阪 俊二	再任	看護医療学科3回生
書記	中西 弘典	再任	学生支援センター職員
委員	遠藤 孝晃	再任	現代教育学科2回生
委員	西 秀人	再任	現代教育学科2回生
委員	荒木 聡子	新任	現代教育学科1回生
委員	濱中 誠	新任	現代教育学科1回生
監事	田中 茂男	再任	現代教育学科3回生
監事	松本 吉央	再任	現代教育学科2回生
顧問	冬木 智子	再任	畿央大学 学長
顧問	冬木 正彦	再任	畿央大学 副学長
顧問	金子 章道	再任	健康科学部 学部長
顧問	前平 泰志	新任	教育学部 学部長

活動を進めていきたいと決意を新たにしています。



畿央大学後援会とは

畿央大学後援会は、畿央大学の学生の父母または保証人をもって構成される団体です。学生の教育や厚生に必要な施設設備の充実、研究活動やクラブ活動などに必要な援助を行うことによって、学生生活の充実と畿央大学の発展に貢献することを目的としています。また、会員相互の連携をすすめるとともに大学と父母または保証人をつなぐ役割を担って、保護者懇談会や広報の取り組みをすすめます。

学生の自立と家庭の支援

教育学部現代教育学科 教授 島 恒生

学生に対してどのように付き合っていくのがいいのか、家庭はどのような支援ができるのかということを、一緒に考えたいと思います。

15歳を対象にしたOECDの国際学力調査（PISA）の試験が行われています。

この調査の結果、我が国の子どもたちは、これまでに習ってきたことを基にしながら、新しい場面に対して課題を解決していく力、すなわち、既習事項をもとに、実践していく力が、課題であると言われています。

OECDは、今、求められている学力の「キーコンピテンシー（主要能力）」とは、「単なる知識や技能ではなく、人が特定の状況の中で技能や態度を含む心理・社会的資源を引き出し、動員して、より複雑な需要に応じる能力」と言っています。

つまり、今までに習ったことや経験してきたことを基に、それを使いながら、新しい場面を乗り越えていく力、これが学力だと言われているのです。

これからの教育が目指す能力

OECD キーコンピテンシー

- ・ 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力
- ・ 多様な社会グループにおける人間関係形成能力
- ・ 自律的に行動する能力

（OECDより）

もう少し具体的に言うと、一つは、社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する力です。今までに習ったことや身に付けてきたことをうまく使いながら解決していく力です。二つ目は、多様な社会グループにおける人間関係形成能力。要は、一人で考えるのではなくて、意見の違う人や立場の違う人と力を合わせながら、新しいものを作っていく力。三つ目が、自律的に行動する能力。つまり、自分の意見をしっかりと持ちながら、多様な社会グループに参加し、共に物事を乗り越えていく力。これらが求められているということです。

今、日本の教育は、教育基本法に基づいて立てた「第二期教育振興基本計画」という計画に沿って進められています。この計画の理念は、「自立、協働、創造」です。

まずは、「自立」した子どもとして自分

の考えをしっかりと持ち、行動することができる。二つ目が「協働」。自分と意見や文化の違う人たちと力を合わせていく。し

これからの教育が目指す能力

第二期教育振興基本計画 自立、協働、創造

- ① 社会を生き抜く力の養成
～個人の自立と協働～
- ② 未来への飛躍を実現する人材の養成
～変化や新たな価値を主導・創造し、牽引～
- ③ 学びのセーフティネットの構築
- ④ 絆づくりと活力あるコミュニティの形成

かも、「きょうどう」の「どう」は「働く」です。つまり、生産性があり、新たなものを生み出す力です。三つ目が、新たなものを創っていく「創造」力。こういったものを今、教育は育てていこうとしているわけです。さらに、今は、「生きる力」からさらに進んで、「生き抜く力」と言われています。その背景にあるのは、変化の激しい、グローバル化社会があります。新しいものが、どんどんやってきます。その中で、しっかりと自分の人生を生き抜いていくことができる。そのための力を、しっかりと育てようというものです。

さらに、経済産業省が社会人に求める力として提唱した「社会人基礎力」を見ても、何が今求められているのかということが分かります。それは、前に踏み出す力、考え抜く力、それから、チームで働く力です。

これからの教育が目指す能力



まさに今、学生に育てたいと思うのが、自分でじっくりと考える、そして困難に出会ったら、引いてしまうのではなくて、友達やいろんな人と力を合わせて、乗り越えていく力。これがとても必要だと思います。学部の違いは、関係ありません。教師にとってもこれは大事な力です。そして病院で働

いたり、一般企業で働いたりする時も、この力が求められています。知識、技能だけでなく、こういうたくましい、生き抜いていく力というのが、今求められているということです。

チームで働く力のキーワードに、「聴く力」があります。要は、上手な聞き手になるということです。ところで、聴き上手な子どもを育てようとしたら、取り巻いている人達が「聴き上手」になればいいんです。ただし、相手の言いなりになってすべてを受け入れるのが聴き上手ではありません。相手の話を最後まで聴くことができるのが聴き上手な人です。最後まで聴いて、「分かった」と言った後に、自分の意見を言えればいいわけですね。

ところが私たちは、最後まで聴けないんです。途中で「分かった、分かった。それで、結局、何を言いたいのか。」と言ってしまふんですね。聴いてみて、ちょっと違っているところがあったとしても、それを最後まで聴いてもらえたということが大事なことです。認められたということが大事なことです。認めることと、言いなりになることは違います。

「あんたは、こういう考え方やったんやね。分かった。」と言った後に、「今度は、お父さんの話を聞いてくれるか。」って言うんですね。お父さんの話が聴けるのには、ちゃんと聴いてもらえたという思いがあるかどうか、ものすごく大事です。

また、学校では、「アクティブ・ラーニング」に取り組んでいます。「アクティブ」とは、能動的ということです。「ラーニング」は学習です。どんなことをするかというと、一斉授業だけでなく、ペアで意見交換したり、話し合ったり、生徒が説明したり、ポスターなどを作成して発表したりなど、子ども同士が主体的に学習活動に取り組む授業です。大学の授業でも、こういう授業は、最近、かなり行われるようになりました。

変化が激しい高度な情報化知識基盤社会というのは、知識を自分でつかみ、生きていく社会です。大学で知識を教えてもらっても、その知識の内容はどんどん変わっていきます。だから、自分で知識をつかみに行くことができる。そんな力が必要になってきているということです。つまり、自立、協働、創造という理念に代表されるように、自らが人生の主体となって生きるというこ



とが今求められているということです。

こうした中で、私の専門の道德教育では、教科化が進められています。ここで求められているのは、自立した一人の人間として、人生を他者とともにによりよく生きる人格の形成をめざすということです。

ここでも、自立と協働が求められています。道德ですから、例えば、どうして命を大切にしなければならないのかということや学習するのですが、みんなで意見を交わしていきながら、生命の大切さを子どもたちが発見できるような、そんな道德の時間にしようということになってきています。そして、多様な価値観を持ちながら、自立した人間、人に安易に振り回されることなく、自立して生きていける人に成長しようということです。

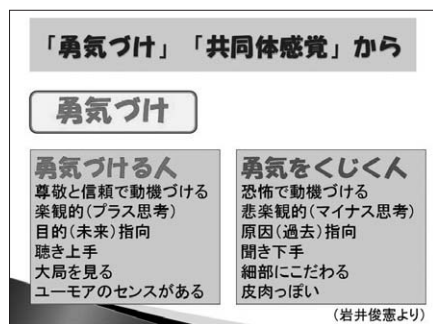
しかし、今の子ども達は、なかなか自立していないですね。今の子ども達は、大きく二つのものに振り回されているのではないのでしょうか。一つは、友達からの目線です。友達がどう思うか。それによって、子どもたちは行動を決めてしまっています。二つ目は、自分がむかつくからというもの、子どもたちの行動の根拠になっています。

「友達がどう思うか」と「自分がむかつくから」が合体して何が起きているかと言ったら、いじめの問題です。だから、ちゃんと自分の中で価値観を作っていくということをやろうとしているということです。

ここまでお話ししてきたことを実現していく上で、そのベースとなるものとして、アドラー心理学の「勇気づけ」というものがあります。あるいは、「共同体感覚」というものがあります。ここでいう「勇気」というのは、力を合わせて困難を乗り越えていくことです。「勇気」がないというのは、する前から自分は無理だって尻込みしてしまう、あるいは、失敗したら、もうだめだと落ち込んでしまうという傾向のある人で

の人たちの「勇気づけ」がとても重要になってきます。

「勇気づけ」とは何なのか。アドラー心理学によれば、尊敬と信頼で動機づける人は「勇気づける人」です。一方、恐怖で動機づける人は勇気をくじく人です。「こんなことしとったら、サンタさん来ないよ。」というのは勇気をくじく人です。尊敬と信頼で勇気づけるとは何かと言ったら、どんと構えていて、何かあった時には相談においで、と言えるような関係です。あるいは、親自身が自分の人生をしっかりと生きていることです。その姿を見せたら、尊敬と信頼で動機づけることができます。さらに、「勇気づける人」の要素には、この他に、プラス思考、未来志向、聞き上手、大局をみる、ユーモアのセンスがあるなどがあると言われています（岩井俊憲『勇気づけの心理学』金子書房（2002）より）。細かいことをぐちゃぐちゃと言っていたら、子どもはどんどん勇気がくじかれていってしまいます。それに対して、プラス思考で、未来を見ながら、話をじっくりと聴く。それによって、子どもに「勇気づけ」が行われていくということです。



「共同体感覚」も、「勇気づけ」にかかわります。「共同体感覚」とは何か。仲間意識。みんなの役に立つ。集団の中でのいわゆる自己有用感というもの。集団の中で役

に立ったという感覚を持つことです。その感覚が、その人を勇気づけることになってくるということです。

さらに、「コーチング」というものも、ぜひ参考にしてみてください。コーチングとティーチングは違います。ティーチングは教えるものです。コーチングは引っ張り出してくるもの。その人には力があると考え、考え方です。

どんなことをするかと言ったら、直接、指示を出すのではなく、本人とコミュニケーションをとり、考えさせ、目標を持たせ、その実現を応援するという方法です。つまり、本人が考えるのです。本人の中からアイデアを出してくるわけです。自分で考えてやったらできた。自分の自信になりますよね。そのために何が大事かというと、「信・認・任」ですね。つまり、信じて認めて任せる。これが大事です。そうすることによって、子どもの中の「勇気」が、どんどんと大きくなっていくのです。そして、困難に出会った時に、乗り越えていくことができるのです。

さらに、最近、ポジティブ心理学というものが、注目されています。これまで私たちは、成功したら幸せになると思っていました。最近の心理学で、この方向が違っていったことがわかってきました。成功したら幸せになるのじゃないのです。幸せを感じている人が成功するということです。つまり、プラス思考の人が成功するということです。親が子どもに接する時、プラスにかかわるかどうかがということがものすごく重要だということが分かってきたということです。

いろいろとお話をしてきましたが、人生は、自分で作るものです。子どもの人生は、子ども自身が作るのです。だから、子どもが自分で作っていくことができるように応援することが大切です。応援するというのは、こちらの思う通りにさせることではありません。子どもを信じて、認めて、任せるのです。

そのためには、まずは、私たち自身の人生を、しっかりと生きましょう。

ありがとうございました。

島 恒生

畿央大学教育学部現代教育学科 教授

兵庫教育大学修士（教育学）
 小学校教諭、奈良県立教育研究所教科指導副部長を経て、現職。文部科学省「小学校学習指導要領解説道徳編作成協力者」「小学校道徳読み物資料集作成協力者」、「中央教育審議会初等教育分科会道徳教育専門部会委員」を務める。道徳教育、生徒指導、学級経営等についての執筆多数。全国的教育委員会や学校での研修会講師として活躍中。

メッセージ

健康科学部
理学療法学科
学科長
庄本 康治



保護者の皆様には日頃より理学療法学科の運営・教育にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

理学療法学科では、1～3回生までは各学年の2名の担任が個別相談、指導などを

実施しています。3回生後期からは卒業研究の準備のためにゼミでの少人数教育も開始されます。4回生からは、ゼミ担任がそれまでの担任の代わりになります。

ところで、学生の相談内容は多岐にわたり、理学療法学科の専門的分野に関すること、進路等はもちろんですが、私生活の事まで色々と相談を受けています。1学年に70名前後の学生が在籍していますので、2名の担任では質量ともに不十分な指導になる場合もあるのではないかと想像しています。

そこで今回、3回生前期に限定し、チューターによる少人数教育を試験的に実施しました。チューターというのは家庭教師という意味であり、理学療法学科15名の教員がチューターになります。チューターによる

少人数教育とゼミでの少人数教育は同じ意味を示していますが、3回生後期以降のゼミと区別するためにチューターと呼んでいます。今回はチューター1名が4、5名の3回生を担当し、2週間に1回程度の頻度で勉強会を開催しました。

私のグループでは、学生さんが前期履修科目の中から難しい科目を11科目選択し、担当学生がそれまでの講義の内容、関連事項を整理して、参加学生に解説し、お互いに質疑応答するという内容でした。試行錯誤で進めていきましたが、他学生への説明と質疑応答により、効果的な学習が出来たのではないかと考えています。今後の継続、方法等についても全教員で検討していく予定です。

Kio元気塾の取り組み

4月14日から7月10日まで、毎週火曜日と金曜日の週2回、16時30分から18時30分まで、理学療法学科3回生、理学療法学科教員、健康栄養学科学生、健康栄養学科教員によるKIO元気塾を開催しました。前年度までは月曜日と金曜日に実施していたのですが、グループワークの時間を十分に確保するために、火・金に日程変更しました。

今回の参加者は脳炎、脳卒中、パーキンソン病などの病気を呈する7名の方々でした。元気塾では、1名の利用者さんを10名前後の3回生が担当になり、理学療法学科教員と一緒に「評価」します。評価とは、細かい検査や測定などを実施し、最終的に、利用者さんの何処をどのように治せば良くなるのかを予測、意思決定する行為全体を言います。

我々は、この評価をベースにして、どのような理学療法を実施するのかを明確にし、理学療法プログラム

を立て、実施していきます。そして、一定期間実施して、その反応、変化などを出来る限り客観的に把握するように進めていきます。前半では、参加者から叱られたり、緊張してまともな会話が出来なかったり、検査が出来なかったりと山あり谷ありでした。

しかし、身体機能が改善する利用者さんも多く、その変化に気付いた学生さんは「少



図1 元気塾終了時の発表大会の様子

しはお役に立てた」と感じるようで、はた目に見てもやる気が出ている事を感じ取ることが出来ました。後期にも次の元気塾を開催する予定をしていますので、前期に参加しなかった3回生にも参加して欲しいと考えています。



図2 利用者さんの歩行を写真、ビデオ撮影して足の動きを細かく分析

学生時代の論文が医学雑誌に掲載へ



今春に卒業し、医療法人社団苑田会に就職した諸橋直紀さんの学生時代に執筆した論文『肝機能障害モデルラットにおける予防的運動が肝機能と筋機能に与える影響』が医学書院の『総合リハビリテーション』にアクセプト(論文を投稿し、掲載のために採用されること)されました。

諸橋さんの喜びの声

今回の研究や論文投稿を通して感じたことの1つ目は、「追究する楽しさ」です。「何かわからないこと、明らかにしたいことを探求する」「発見する」「知的好奇心を満たしていくこと」は非常に楽しいことです。これらを学生時代に感じておくことは、臨床に出た時の「生涯学習の鍵」となるように

思います。2つ目は、「結果が形になること」です。それは想像していたよりもはるかに感動するものでした。しかし、結果を残すことは重要ですが、それだけに一喜一憂せず、患者様や多くの方の幸せを願って日々努力したいと思います。

本気でやれば、本気で応えてくれる仲間や先生がいます。そのことに感謝して、頑張りたいと思います。

在学中のゼミ担任今北教授より

この研究は卒業研究として仲間と一緒にこなったもので、在学中に投稿論文を書き上げました。卒業が迫るなかで、国家試験の勉強もやりながら、さらに論文を書き上げたチカラは驚きに値します。私の中でも新しい挑戦であり、本人の可能性を引き出してあげることの大切さを学ばせていただく、良い機会でした。本当にありがとう、そして、おめでとう!!

メッセージ

健康科学部
看護医療学科
学科長

河野 由美

保護者の皆様には、平素より本学の教育に深いご理解とご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、2025年には日本の人口の約2割近くが後期高齢者になると推計されています。



今後、益々増加する認知症や独居の高齢者に対し、QOL（生活の質）を高めるためには、他職種との連携やチームアプローチが必要不可欠となります。また看護職には高い倫理観が求められ、病院などの施設内だけでなく在宅や地域といった施設外での活躍が期待されています。本校では看護職に望まれる資質を学生に育成すべく、「チーム医療ふれあい実習」や「離島へき地医療体験実習」そして「生命倫理」など特色あるカリキュラムを構成しております。

なお、日本看護協会によれば「病院に就職した新人看護職員のうち、1割が就職後1年以内に離職している」と報告されています。折角苦労してライセンスを得ても、自信と希望をなくして離職してしまうこと

は大変残念なことです。本校では、学生が専門職として仕事に誇りとやりがいをもって長く活躍できることを願って、就職後のリアリティ・ショックを軽減できるよう「病院インターンシップ実習」も行ってまいります。

おかげさまで本校の今年の国家試験合格率は、看護師、保健師、助産師の三職種においていずれも100%と、嬉しい快挙を成し遂げました。国家試験合格には学生の努力もさることながら、ご家庭のサポートが大きな力となります。学生の夢を叶え、社会で活躍できる専門職の育成を目指し、学生・保護者・大学が三位一体となって邁進していく所存でございます。保護者の皆様におかれましては、今後ともご支援とご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

基礎看護技術の学びについて

基礎看護学分野では、看護職として修得すべき基本となる技術を1回生前期から2回生前期の期間に学んでいます。基礎看護技術は「清潔」「食事」「排泄」のように生きていく上で欠かせない生活行動に関する援助技術と「血圧測定」「注射」のように治療に関わる技術を学びます。

学生は入学当初、ユニフォームを着ることに素直に喜んでいるようです。しかし、看護技術は根拠となる知識に基づいた安全で安楽な技術でなければなりません。教員のデモンストレーションでは簡単そうに見える技術も実際に行くと学生にとってはとても難しいようです。演習のたびに着るユニ

フォームも素直に喜べたのは一時だけかもしれません。

1回生ではベッドメイキングで苦労していた学生も2回生では、注射や採血といったより専門的な知識が求められ、手技においても複雑で細かな動きが必要な技術を学びます。

難しいとされる注射の技術では、様々なモデルやシミュレーターを活用しながら、ひとつひとつ段階的に学べるようにしています。注射器を持つ手もままならない学生が、繰り返し行う演習で技術を身につけていきます。また、採血では学生4～5名に対し教員1名が担当し、安全面を確保して

指導しています。

学生は演習を通して、未熟な技術が対象者に与える影響について考えさせられ、医療者としての責任を感じるようです。倫理的感性に基づいていなければ確かな技術とは言えないことを理解し、白衣（ユニフォーム）の重みを感じてほしいと思っています。



実習病院の看護師さんたちに来校いただきました！ ～急性期看護学援助論Ⅱ～

看護医療学科3回生の学生は、臨床実習にむけた実践演習に取り組みました。急性期看護学実習では、手術を受ける患者さんへの看護（周手術期看護）と救急看護を学びます。

7月6日・13日の授業（演習）には、周手術期の臨床実習施設である東大阪市立総合病院の看護師さんたちが来てくださいました。看護師さんたちは、学生が演習する様子を温かい目で見守ってくださり、タイミングを見計らって適切なアドバイスを下さっていました。



演習が終わるとみんなクタクタに疲れていますが、一つずつ習得していく知識や技術がみんなを大きく成長させてくれます。

両日の演習を終えて、東大阪市立総合病院の

看護師さんから「皆さんが大学でこんなに伸び伸びと楽しく学修しているんだな」という感想と「病院実習でも過剰な緊張は不要です。ここで先生方から教わった知識を持って実習を楽しむつもりで頑張ってください」というエールをいただきました。

急性期看護学では、教員と臨床指導者の連携を強化することで、実習を通して学生が「看護することの喜び」を体験し、成長してくれることを願っています。



手術後の患者を想定した演習をする学生たち
・患者役の役作りは女優さながら・



喉頭がんの手術を受けた患者の様子を表現する学生

メッセージ

健康科学部
健康栄養学科
学科長

小西 洋太郎

4月から学科長として着任しました。日頃保護者の皆様には、本学の教育・人材育成にご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。



着任後半年間ですが、授業のエピソードを紹介します。私の担当する2回生向けの授業は、これまで経験したことのない100名規模です。初回、たがいに初対面なので緊張感があってもいいはずなのに、教室がざわついている。私の第一声は「静かに」でした。大人数なので私語はある程度覚悟していましたが、まじめに講義を聴こうとする学生にとっては迷惑な話です。その後数回の授業で私語に対して注意しましたが、ある日ついに堪忍袋の緒が切れました（仏の顔も三度までと申します）。「私がこのように大声で怒るのは、諸君に講義を聴こうとする姿勢がある、そのことに期待する

からだ」と一気にまくしたてました。後味はよくないものの本気度100%でした。その後私語が起きると、どこからともなく「シーッ」という声が板書している私の背後から聞こえてきました。大げさかも知れませんが、受講している学生の間で私語を制する「勇気」、「胆力」といった「チカラ」が自然発生した瞬間だったと思いました。建学の精神の一つ「徳をのばす」に通じるものだと思います、今後も畿央大生を信頼しつつ見守ってゆきたいと思っています。

最後に、会員の皆様におかれましては、本学の発展に一層のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

健康栄養学科の臨地実習について

臨地実習は学外の施設において行われ、内容は「給食の運営」「臨床栄養学」「公衆栄養学」の3科目です。それぞれ少人数グループに分かれて小学校や従業員食堂等の集団給食施設、病院や介護老人保健施設等の医療提供施設、保健所や保健センターに

において実習させていただきます。

患者さんと施設の利用者さんと接することでコミュニケーション能力の必要性を感じ、厨房での調理を通じて献立作成の大切さや安全性を確保した動線の描き方を学び、さらに病態にあった食事への展開をする応用力の重要性を体感してきます。また他職種との連携が不可欠であり、その現場を体験できる貴重な機会でもあります。

実習にあたってまず求められるのは挨拶であり、学校や家庭における普段の生活において習慣づけるように指導しています。さらに社会人としての立居振る舞いも求められるため、臨地実習の事前指導にあたる「総合演習」において専門の外部講師を招き「医療接遇研修」を実施しています。さらに4回生の経験談を聞く機会も設け、事前



「医療接遇研修」の様子

学習に役立てています。

各施設を現場体験することによって管理栄養士として働く姿をイメージできるようにもなり、その後の就職活動にもつながる貴重な経験であったことが学生たちの表情や姿勢にあらわれます。学生たちには、この体験をモチベーションにして、就職活動や管理栄養士国家試験の受験勉強につなげていってくれることを教員一同期待しています。



小学校での食育授業の様子

近鉄香芝サービスエリアで販売される
カフェメニュー 4アイテムが決定！

昨年に引き続き、今年度は近鉄リレーリングSA事業部と「近鉄香芝カフェメニュー開発」を行い、健康栄養学科の主に食品開発コースの2回生57名が参加、16チームに分かれて創作メニューに取り組みました。

7月25日（土）に審査会が行われました。SAでのトラックドライバーやファミリー層など幅広い顧客層をターゲットとしており、商品のネーミングや容器、テイクアウト可能性などいろんなスチュエーションに照らしてのプレゼン能力も問われます。学生たちは、自分たちの順番・プレゼン時刻に最良の状態を出せるよう準備していました。ほとんどが冷製状態での試食提供だったため、まるで店売りのように直前調理が出来栄を左右します。

審査の結果、グランプリ、準グランプリ、特別賞2作品の計4作品が受賞となり、(株)近鉄リレーリング中井社長から各チーム代表者に表彰状と賞品が贈られました。中井社長から

は、「学生たちの独創的なアイデアが活かされた作品ばかりで、特にこの4作品は近鉄香芝SAカフェメニューに採用したい。そして来年度もまたチャレンジしてほしい。」との言葉をいただきました。

4月から始まった近鉄SAカフェメニュー開発は、勉強会、検討会を経ていずれの作品も見事な仕上がりととなりました。学生にとっては思い出に残る貴重な体験になりました。



メッセージ

健康科学部
人間環境デザイン学科
学科長

三井田 康記

入学した頃は幼く見えた1回生も、大学生生活に慣れ、授業もにぎやかさを増してきました。

2回生は、製図室の使用にも慣れて、自分の部屋のように、製図に、勉強に楽しく使っ



ています。

前期試験が終わり、試験勉強や課題の製作に夜遅くまで、製図室で図面台に向かっていた学生の姿も見えなくなりました。学内は急に静かになりましたが、夏季休暇の間は日ごろできない体験を積み重ねる貴重な期間です。

3回生の多くはこの期間に企業インターンシップに出ます。この授業は、2週間ほど企業で就業体験をするというものです。実際の仕事を体験することで、周りから寄せられる期待の大きさ、自分の立場、自分の未熟さ等を感じるようです。インターンシップから戻った後の成果発表会では、各自の意気込み、反省などを踏まえ、見違え

るほど目つきが変わります。

一方、2回生と3回生合同のプロジェクトゼミも始まります。学外に出て、調査や見学を行います。課題解決に向けた議論や共同作業で、学年を超えた絆が生まれ、積極的な態度が培われます。

9月半ばからの新学期、4回生は、大学4年間の集大成としての卒業研究がいよいよスタートします。今年度は、平成28年2月27日（土）、28日（日）の2日間、奈良県庁の西隣りにある「奈良文化会館」のギャラリーで卒業作品展を開催する予定です。4回生のご父兄はもちろんのこと、下級生のご父兄の皆様もぜひ足をお運びください。学生の成長に驚かされるに違いありません。

こんなことをしています!! ～1回生必修科目「景観・まちづくり演習」～

景観・まちづくり演習は、奈良県内のいくつかの地域に現地見学を行い、その見学内容から地域の魅力と課題を見つけ出し、問題解決のための提案を行う演習です。

今年度は今井町、吉野山及び大宇陀地域の3か所を訪問しました。

見学会の後5～8名ほどのグループに分かれ、各班2、3週間ほどの作業及び調査期間を置き、班の中で話し合いながら地域に対する提案発表を教員に行います。

高校までは与えられたことをこなすだけのことが多かった1回生、この授業に関しては全て自分たちでイチから考えなくてはならず、戸惑うことも多いようです。中にはグループの中で意見の統一ができず、ばらばらな内容の発表になってしまったり、約束をしても作業してこない人がいたり、班の中でも大変なことがあるようです。

今年度は初の試みとして、提案発表の際に地域の方に来ていただきました。大宇陀地区在住の裏さんと勝井さんです。お二人

からは、「まだまだ人に伝えようとするには拙い発表内容だけれども、着眼点が良い」などと厳しくも期待をこめた言葉をいただ

きました。

ご協力いただいた地域のみなさん、ありがとうございました!!



今井町での見学の様子。入学してすぐの宿泊研修の一環として行いました。



吉野山、世界遺産である蔵王堂と町並みを見学



大宇陀地域での地元の人による講演



最終回での発表風景

コミュニティカフェで落語会

卒業研究齋藤ゼミの4回生7名が昨年度に引き続き、御所市で毎週金曜日にコミュニティカフェを開いています。商店街の空き店舗をお借りして、床や天井、家具などすべて学生自身で作り上げて、地域の方々がふらりと気軽に寄れる、あたたかい集いの場を設けたいという思いで運営しています。

おかげさまで一周年を迎え、8月21日（金）記念の落語会を開催しました。日頃お世話になっている地域の方々を多くお迎えすることができ、カフェは笑いに包まれました。

昨年オープンした頃は、初めてお会いする方ばかりで話しかけることに照れがあった学生も今は、「こんにちは！いつもありがとうございます！」「今日も暑いですね！お体大丈夫ですか」など積極的に話しかけ、地域の方々も「お昼のお弁当

作ってきたから食べてね」「いつもありがとう。こないだこんなことがあってね」などとお話

してくださり、会話が自然と飛び交うようになりました。コミュニティカフェの名前は「つどい」。人と人との触れ合いによって生まれる笑顔や、思いやりの気持ちを持つコミュニケーションが、地域の活性化につながることを実感した一年でした。これも、毎週、誘い合ってイベントに参加してくださる地域の方々、ご協力いただいている御所市の皆様のおかげだと心から感謝し、今後もまちづくりのワークショップに積極的に取り組んでいきたいと考えています。



メッセージ

教育学部
現代教育学科
学科長

安井 義和

本学後援会の皆様には、現代教育学科の教育・研究活動に温かなご理解とご支援・ご協力を賜り、心よりお礼を申し上げます。殊



のほか暑さが厳しい夏でしたが、皆様にはお変わりございませんか。企業等の就職活動は今年から8月スタートと遅くなり、汗みずくの猛暑の炎天下のなかで、勝負服の黒の正装した若者を見るのも頻繁です。本学科の学生も最近は入学当初から企業就職をめざす者や進学を目標にしている者も増加しています。学部としては歓迎です。大半の学生が就職関係就職希望の状況下で、企業や進学をめざす学生へのバックアップもより確かなものにする必要があると痛感しています。ただ、「教育学部」に入学した彼らの動機・経緯をより深く知りたいと思っています。(個人的なことで恐縮ですが、

私自身も学校教員を目指した訳でもないのに教育系大学に入学した一人でもあります。)

そして本学科に入学した学生全員が希望した進路に進進できるように、4年間の生活が希望する職業に就くための確固たる礎となるように、保護者の皆さまと力を合わせて精一杯サポートしたいと考えています。大学卒業後、10年30年経過したときに、本学科に在籍したことが大きな位置づけになっていることを期待しています。

今後も本学及び本学科への変わらぬご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

公立小学校・養護教諭採用試験で過去最高の合格率！

平成26年度は、教育学部現代教育学科6期生のうち、50名が小学校教諭（大阪府19名、奈良県16名、その他15名）、7名が養護教諭の採用試験に現役合格しました。合格率は小学校71.4%（昨年度53.8%）、養護教諭70.0%となり、2006年の学科開設以来最高の結果を残すことができました。

また、公立幼稚園・保育園は、24名が受験し22名が現役合格（昨年度は20名中19名）、合格率は91.7%となりました。

昨年来の学生、教採・公務員対策室、教

育学部現代教育学科教員が強く連携した体制の成果です。

合格した学生の声です。

「先生方からのとても厳しく熱心な指導からは、愛さえ感じられるので、辛くても頑張ることができました。本番を迎えるころには、これだけお世話になったからいい結果を報告したいという思いが強くなり、意欲が高まりました。」

「対策講座に出席して力をつけることができました。先生に質問に行けば、分かるまで丁寧に教えてくださいました。専門科目や面接練習は養護のメンバーで集まって勉強会をしました。一緒に頑張る友達、いつもそばで応援してくださった先生方がいてくれたからこそ、採用試験を乗り越えることができました!!」



読み聞かせ指導



マット練習

暑い、熱い夏、今年も、学生の夢の実現に向かって、筆記試験や面接、討論の対策をはじめ、模擬授業や保育、マットやプール、ピアノ、絵画などの実技指導に、学生と教職員が一丸となって取り組んでいます。

大阪教育大附属池田小学校での拡大授業

教育学部1回生は、今年度も授業の一環として、全員が大阪教育大学附属池田小学校を訪問しました。

附属池田小学校では、平成13年、安全な場とみなされてきた

小学校に侵入者が押し入り児童と教員が殺傷されたという衝撃的で悲惨な事件の後、安全で安心できる学校づくりに教職員・保護者・教育大学・地域が取り組み続けてきました。その結果、日本初のWHO（世界保健機

関）のInternational safe schoolに認証されています。

学生たちは、安全を考慮した見通し良い校舎の中で、教室に入ってから授業参観や休憩時間の児童との交流の後、学科長の安井先生（当時の教育大学側の関係者として対応し、安全・安心な学校づくりに尽力）から、現場で説明や指導を受けました。触れ合った児童と同じ様な幼い子どもたちに起こったことを詳しく知り、命の重さ、教員としての使命を一層重く受け止め、強く心に刻みました。

授業・環境・安全のあり方・教師のかかわり方を深く学んだ附属小学校での経験は、教師や保育者を目指す学生たちにとって、忘れえぬかけがえのないものとなりました。



担任からのメッセージ

畿央大学の担任制度は、教員が学生との人格的な接触をはかり、学生生活全般の指導を行うことによって、建学の精神を身につけた有為な人材を養成することを目的としています。

健康科学部は学科によって2～4クラスを編成し各クラスに1名、教育学部はコースごとに2～6名の担任を置くことにしています。健康科学部4回生、教育学部3・4回生は卒業研究の指導



理学療法学科1回生担任

前岡 浩

大部分の学生が順調に大学生活に慣れつつあります。新しい友人もでき、大学生活は楽しいという意見が多く聞かれました。一方、学習面では内容・スピード・量について行けるかと不安の声も多かったです。大学生は学習が最優先であり、日々学習に取り組む必要があることは理解してくれているので、後は実行してくれることを期待し、私もできる限り支援いたします。

大学生になると生活のリズムが崩れやすく、授業の欠席や遅刻、授業に集中できない状況が起こりやすいかと思います。ご自宅でも生活状況を見守っていただければと思います。



理学療法学科1回生担任

梶原 由布

大学入学から4ヶ月が経ち、1回生も大学生活に大分慣れてきた様子で授業に出たりクラブ・サークル活動に励んだりしているようです。前期面談でも「大学楽しいです!」と明るい声で報告してくれる学生さんが多く、嬉しく思っています。大学に入って初めての定期試験を前に少し不安もあるようでしたが、自習室で遅くまで試験勉強に取り組んでいるようです。

大学生活の中で将来への希望だけでなく不安や悩みも多いかと思いますが、共に考え、共に成長できるように努めていきたいと思っています。保護者の皆様もご支援の程宜しくお願い致します。



理学療法学科2回生担任

松尾 篤

学生たちは、1年間の大学生活で少しずつ大学生らしく、そして大人の階段を着実に登っております。2回生からは専門科目も増え、記憶し思考することが日々膨大になってきております。そんな中、学生たちは「一生懸命にちゃんとやる」のモットーを頑張って実践しております。徐々に表情もキラリ!と輝きだし、彼らの将来が非常に楽しみにっております。建学の精神である「徳をのびす、知をみがく、美をつくる」を心身に染みこませ、最高の理学療法士として育つよう彼らと共に学んでおります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



理学療法学科2回生担任

宮本 直美

学生生活も2年目となり、楽しい充実した日々を過ごしている様子です。学習面でも専門科目の講義が増え、実技を習得するための授業や試験も始まりましたので、試験期間に限らず普段から勉強に励んでいる学生も多くなっております。

2回生の時期に、様々なことに興味や関心を持つことができるように、また一生懸命にしっかりと取り組む習慣を身につけていただけるように、私自身も努力しながらサポートしてまいりますと考えております。今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。



理学療法学科3回生担任

福本 貴彦

先日実施した個人面談で、1～2回生で学んだ基礎医学を応用・発展させた理学療法学の各論を履修するにあたって、難しさと喜びを感じていると多くの学生が語ってくれました。各専門分野のゼミ配属も決定しました。半年後には、実際の病院施設での長期臨床実習がひかえています。入学当初とは明らかに表情や姿勢が変わってきており、夜遅くまで自習室などで勉強している学生をよく見かけます。教員もまた気を引き締めて指導に当たっておりますので、今後とも温かい目で見守っていただければと思います。



理学療法学科3回生担任

瓜谷 大輔

昨年度1年間はこれまでになく教員から叱咤激励を飛ばし続けた学年でしたが、3回生になって新たな教育的な試みを通じて学科全体で学生と向き合う中で、一人一人の目の色が少しずつ変わりはじめました。学習に取り組む姿勢も目に見えて改善しております。講義形式の授業の大半は前期で終了し、後期はほとんどが実践的な授業で占められます。そして後期終了後の2月からは病院での実習がスタートいたします。いよいよエンジンがかかってきた学生たちのサポートをご家庭でもぜひとも宜しく願いいたします。



看護医療学科1回生担任

堀内 美由紀

前期面談では、ほとんどの学生が楽しく大学生活をスタートしている様子で安堵しました。高校までとは違う授業スタイルや時間の使い方に戸惑っているかと話す学生もいましたが、その表情は苦痛というより大学生になったという自覚を表現しているようでした。すでにサークルやアルバイトをしている学生も7割ほどおり、今後は学習とそれ以外の時間にメリハリをつけられる力が必要ですよ。

何より健康に関わる専門家を目指す者として、食事や睡眠、運動や休息のバランスを意識した健康管理が自分でできるようご家庭でもサポートをお願いします。



看護医療学科1回生担任

祐實 泰子

一回生の皆さんも大学に入学され、早四ヶ月余りになります。初めての講義で緊張していた皆さんも、多くの表情を見せるようになり、活気に溢れ、のびのびと学生生活を謳歌しているように思います。アメリカなどでは一回生のことをフレッシュマンと呼びます。初々しく希望にあふれているからそう呼ぶのだと聞いたことがあります。フレッシュマンという言葉がびったりの一回生の皆さん、その希望にあふれた未来、夢を実現するために、共に学び、成長していくのを楽しみにしております。



看護医療学科1回生担任

文 鐘聲

前期の面談を終え、元気に大学に通い、新たな環境で少しずつ慣れてきていると感じました。勉強、サークル、アルバイトなど、様々なことにチャレンジしてみてください。しかしバランスは大切です。勉強が疎かになるという本末転倒なことは避けましょう。

また、高校までの勉強とは違い、たとえ「課題が少ない」科目でも授業以外の時間に「主体的に学ぶ」のが大学教育の特徴です。今のうちに少しずつ「主体的に」勉強する習慣をつけていきましょう。それによって、今後より難しくなる専門科目の勉強もしやすくなると確信しています。



看護医療学科1回生担任

小林 智子

皆さん明るく元気で、始まったばかりの大学生活を心から楽しんでいる様子です。学習面では、専門科目において慣れないながらも熱心に取り組んでいます。なかでも看護技術に関しては得意・不得意もあり、なかなか苦勞している人もいますが、修得しようとする懸命な姿勢は今後も継続してほしいと思います。担任としてはつかず離れずのスタンスですが、全体に目を配ることを心がけています。大学生として、そして看護を学ぶ者としての自覚を促しながら、サポートできる態勢も整えておきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。



看護医療学科2回生担任

山崎 尚美

前期試験も終了し、学生の皆さんはホットしている頃でしょうか。2回生の前期は講義が中心ですが、オープンキャンパスの学生ボランティアや小学校の検診や高齢者ケア施設、認知症カフェなどのボランティア活動に取り組んだ学生もいます。夏季休暇中に短期語学留学に参加する学生もいるようですし、ぜひ学生時代にしか体験できないことにチャレンジしてほしいと願っています。有意義な学生生活を過ごせるようお見守りください。

看護医療学科2回生担任



廣金 和枝

4月から担任になりました。前期担任面談では、初めてお話しする学生がほとんどでしたが、皆、しっかりと、今、自分が考えていること、感じていることを話してくれました。看護職は、高いコミュニケーション能力が求められますが、その点で、大変、頼もしく感じました。2回生になって勉強がぐっと専門的になり、戸惑っている学生もいましたが、皆で支え合い、助け合いながら、充実した大学生活を送ってほしいと思います。私は、個々の学生が描いている将来を確認しながら、支援を行っていきたくと思っています。



看護医療学科 2 回生担任
堀江 尚子

前期面談では、大学生活が充実している様子を多く聞くことができました。大学には多様な事に出会い経験できるチャンスがあります。サークル、ボランティア活動とそれぞれの関心事に取り組んでいるようです。一方、多くの学生が課題への取り組みの大変さを語ります。課題が睡眠時間を圧迫しているという声もあります。しかし、よくよく聞くとスマホを常に横におき、集中して課題に取り組めていない学生が少なくありません。授業では原則使用禁止ですが、ご家庭でもスマホの使い方を話し合う機会を持っていただけたらと思っています。



看護医療学科 2 回生担任
鷲尾 弘枝

本校に入学されてから1年4か月余りが経過し、大学での生活にもすっかり慣れてこれたのではないかと思います。と、同時に、確実に難しくなっていく専門科目の学習に、しんどくなっているお子様を少し心配されているのではないのでしょうか？

1 回生から、日々の学習の積み重ねの大切さをお伝えしておりますが、2 回生になって、各科目の課題の大変さを痛感されているのではないかと思います。今後はますます課題も増え、試験も難しくなっていきます。国家試験という大きな夢の達成に向けて、再度この機会にお子様の生活を一緒に振り返っていただき、お子様と一緒に、毎日の積み重ね学習が継続できるように、保護者の方々のご指導・ご協力をいただきますようお願いいたします。私も一緒に支えてまいりたいと思います。



看護医療学科 3 回生担任
福森 貢

3 回生のこの時期は、後期からの実習の現場で誠心誠意対応できる「技術と知識」を専門科目で濃密に学習する大切な時期です。面談では、もっと深く技術と知識をマスターしないと実習が不安であると感じている学生も多々いました。このことは、実習に向けての意識が高まっている証拠であり、担任としてはうれしかぎりです。大いに期待したいと思います。

今後ますます過酷なスケジュールが続きますので、ご家庭におかれましても温かく見守ってあげてください。どうぞよろしくお願い申し上げます。



看護医療学科 3 回生担任
林田 麗

2 回生から担任となり1年が経ち、今では学生みんなが親しんで声をかけてきてくれます。面談では学修のことや大学生活のことを話してくれて、私も担任としてできる限り力になりたいと思っています。後期から大半の学生は臨床現場で実習を行うことになりましたが、期待と不安でいっぱいな様子です。ご家庭と大学とが協力し合い、学生を叱咤激励しながら心身ともに打たれ強く育てられるように関わっていきたくと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



看護医療学科 3 回生担任
弓場 紀子

学生は皆、迫りくる臨地実習に向けて不安がありながらも、やっと昨年度までの長い座学生生活から解放され看護の対象と向き合う実践場（臨地実習）に出ることを楽しみにしています。また、実習中心の生活になるにあたりアルバイトを辞める学生や規則正しい生活リズムになるよう早寝早起きを試みる学生、今まで以上に健康管理に気を

つけている学生など個々に何をしなければならぬかという問題に向き合っている様子が伺えます。一方で、アルバイトは気分転換になるとの理由から継続している学生もいます。

後期からの臨地実習中心の生活は、起床時間が早くなったり、対象との関係性で悩んだりなど今までの生活スタイルと異なる面が多々ありストレスフルな日々を送ることになります。真面目に取り組む学生が多いため、体調を崩すにうまく乗り切ってくれるかが心配です。

学生が、いつでも気軽に学習や生活上の悩みなどを相談できる関係でいたいと思っています。後期から臨地実習という環境下でかなり疲労すると思われる。安らげる環境づくりをお願い致します。



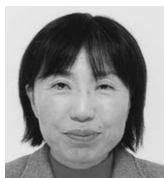
看護医療学科 3 回生担任
對中 百合

3 年次になり、より専門的な科目が増え、演習授業で具体的な看護実践の学びを深めることになりました。課題も多く、大変だったと思いますが、その中で自分の学習方法の確立ができたのではないかと思います。後期からは、臨地実習となります。どの学生も実習に対して不安があるようですが、臨床でしか学べないことは沢山あります。充実した日々となるように、担任としてできる限りサポートいたしますが、ご家庭でも暖かいご支援をよろしく願いいたします。



健康栄養学科 1 回生担任
並河 信太郎

1 コマ90分の授業に慣れてきた様子で自分なりにペースを掴んで学習に取り組んでいます。授業外での部活動や食育等の活動に積極的に参加している学生も多い傾向です。個人面談の相談内容は、実習のレポートに時間を要する、高校で化学を履修していないので不安、定期試験対策などでした。レポート作成は経験を重ねていくことでコツをつかむ、化学は授業で基礎から学んで有機化学につなげていく、試験は科目担当の先生に積極的に質問する等をアドバイスしました。心身ともに健康で充実した学生生活が送れるようサポートしていきます。保護者の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



健康栄養学科 1 回生担任
上地 加容子

面談では、クラブやボランティアに参加している学生が大半を占め、大学生活が楽しくと笑顔で話してくれた学生が多かったという印象で、とても嬉しく感じると共に、順調に大学生活のスタートを切ることができた様子にホッとしています。学生時代でなければできないことに取り組み、充実した学生生活を送ってほしいと思います。何か困ったことがあれば1人で悩まず、相談に来るよう話していますが、ご家庭でも会話を心がけていただくなど、保護者の皆様と一緒に成長を見守っていきたくと思っています。



健康栄養学科 1 回生担任
柴田 満

大学入学当初はとても緊張した面持ちでしたが、4ヶ月が経過した現在、とても充実した大学生活を送っている様子で、面談では「大学が楽しい」という声を多く聞きました。2 回生以降は3つのコースに分かれることもあり、将来についてしっかりと考えている学生が多いように感じました。高校までの勉強とは違い予習復習が追いつかないなど、戸惑いもあるようですが、少しずつ大学の授業に慣れているところだと思います。担任として、一人ひとりしっかりとサポートしていきたくと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



健康栄養学科 2 回生担任
岡崎 眞

原子力発電所の再稼働がニュースを賑わせていますが、「慣れ＝甘く見る」という、このまったく人間らしい成行きこそが、危機管理ということにとって最大の敵であることは日常生活の中で頻繁に経験するところです。2 回生の一年間は「自ら学ぶ」という姿勢を獲得する本当の意味での大学生に変身する時期になります。この期間をどのように過ごすかということがそれぞれの人生を決する、といっても過言ではありません。担任としては保護者の方々と協働して、入学時のあの、よい意味での緊張感を維持しつつ、本当の意味での学生に羽化できるように、彼の人たちを見守っていきたくと思っています。



健康栄養学科 2 回生担任
永澤 健

2 回生になり、大学生活にもすっかり慣れて毎日が充実しているようです。面談でも「大学が楽しい」「充実している」「部活・サークル活動ががんばっている」という声を多く聞き、嬉しく思っています。2 回生では、授業内容がさらに高度になってきます。学習の量と課題が増え、授業やレポートに追われることが多くなりました。そんな中でも、学生たちはしっかりと学習に取り組み、力をつけていると感じました。後期からも「復習」と「学習時間の確保」を大切にして欲しいと思います。

健康栄養学科の卒業生に聞くと、大学生活の中で自分の時間が多く取れたのは2 回生のときだったようです。大学生活の中間に当たる2 回生の時期に、自分の時間を有効に活用して、学生時代にしかできない経験を積んでくれたらと思っています。今後とも保護者の方々のご支援をよろしくお願い致します。



健康栄養学科 2 回生担任
松村 羊子

2 回生になって一番の印象を聞くと、専門科目がぐっと増えたために授業が難しくなったという声が多く、勉強の必要性や大変さを実感している様子でした。管理栄養士には専門性の高い知識が必要であり、基礎は今のうちに身につけることが重要であることを面談では伝えています。今の基礎の上に応用が積み重なるため、土台をしっかり築くことが大切です。試験前だけの勉強ではなく、こつこつ築き上げていくために習慣づけてほしいと願っています。そのためのサポートは何かできるか、私も考えていきたいと思っています。



健康栄養学科 3 回生担任
岩城 啓子

前期は実験実習に追われ多忙な様子でしたが、定期試験直前には少し落ち着いて、友人同士学校に残り試験勉強をしている姿も多くみられました。前期の面談では、希望進路の決定を勧め、栄養教諭や公務員を目指す学生は教採・公務員対策講座の受講も始めています。まだ進路を決めかねている学生には、今夏の臨地実習の体験も踏まえ熟慮するように促しています。後期には、国家試験に向けた勉強も始めるように指導していきたいと考えています。



健康栄養学科 3 回生担任
金内 雅夫

学校とアルバイトの往復で疲労困憊の心身を潤すために本を読もう、本を買おう、書籍に投資することは勿体ないでしょうか。文化庁の調査によると、1 カ月に1冊も本を読まない人の割合は20歳代で40%を超えています。先日、「雲の墓標」

などを著した阿川弘之が他界しました。志賀直哉に師事し、端正な文章で鎮魂あふれる作品を残しましたが、また「言葉と礼節」を重んじる作家でもありました。それが何だと思われる方も多いでしょうが、結局のところ読書は教養を培うでしょうし、況やそれがやがて「大人の見識」に繋がるからです。



人間環境デザイン学科1 回生担任
藤井 豊史

ほぼ全員と面談を行い、皆さん将来への夢を語ってくれました。ただ、私の目にはその夢が「何をしたいか」ではなく「何になりたいか」だったことが少々気になります。例えば、「建築とどう関わりたいか」や「どのような建築を作りたいか」ではなく、ただ「建築士になりたい」と。しかも、その理由を問うと「就職に有利だから」。勿論、それも間違いではありませんし、必要なことでしょう。しかし、若い時くらい、生きる方法でなく生きる目的となる夢を持って欲しいと思います。

私は57歳になりますが、今でも夢を持っています。その一つは…彼らの中から一人でも多く、未来をつくることのできる人物が育ってくれることです。



人間環境デザイン学科1 回生担任
李 沅貞

5月中旬から6月初旬の間、2組32名全員を対象に前期面談を行いました。入学式、宿泊研修から1か月半余りの時間でしたが、すっかりと新しい生活に慣れている様子が見受けられました。しかし、多数の学生から今後どのように勉強をするべきなのか、卒業後の進路についてもよく分からないとの不安の声がありました。1回生の1年間は進路を決める大事な時期でもあります。それぞれの具体的な「夢」を決め、その「夢」に向かって前進できるよう担任として支えていきたいと思っています。後期の面談が楽しみです。



人間環境デザイン学科2 回生担任
東 実千代

面談をするなかで、一気に大学生らしくなった印象を受け、学生生活が充実している証と嬉しく思いました。成績は様々でしたが、取得単位数は概ね良好です。前期の間に資格取得に励んだ学生も多く、インテリア設計士や色彩検定の合格を知らせに来てくれました。一方で、進むべき方向に悩んでいる学生もいますが、じっくり自分と向き合えるのは学生の特権です。学びながら考え、決して逃げずに自分の進むべき道を見つけて欲しいと願っています。後期からはプロジェクトゼミが始まりますので、先輩達との学びにより一段と成長する姿を楽しみにしています。アルバイトは様々な活動資金を調達する目的だけでなく、社会経験として学ぶ面も多いようです。しかし、過労働にならないようご家庭でも見守って頂ければ幸いです。



人間環境デザイン学科2 回生担任
西山 紀子

今回の面談では、はじめに、「2回生になってから今日までの学生生活を振り返って一言」と感想を求めました。多くの学生から「楽しい」の言葉が返ってき、安堵した次第です。建築・インテリア、服飾、教員などそれぞれに進路もほぼ決まり、目標をもって学業に取り組み、課外活動にも積極的に参加するなど、充実した日々を送ることができていると感じました。夢の実現に向けて努力が続けられるよう、保護者の皆様と力を合わせて、できうる限りの支援をしたいと思っています。



人間環境デザイン学科3 回生担任
中山 順

3回生で私が担任をさせていただいている学生との面談で感じたことは、2回生の時と変わらず自分の進路をしっかり持っている人が多かったことです。ほとんどの学生が3回生になってからもぶれていないようです。自分の進路がぶれていない人は成長しているなと感じます。ただ、3回生になってから授業課題等で時間的に余裕がない人が増えており、それでも頑張れる熱意は持っているようです。今後もその熱意が継続するよう期待したいと思います。



人間環境デザイン学科3 回生担任
村田 浩子

4回生には大切にされ、2回生に慕われる3回生になりました。ほとんどの学生さんが学業やサークル、アルバイトな時間ともに充実している様子です。学生面談では専門の授業が増え夜遅くまで課題に取りくんでいること、ゼミで地域へ出かけ貢献していることなどの話を聞き、昨年から一回り大きくなった姿にうれしさを感じています。

これからもそっと見守りながら、学生さんが必要とするときにはしっかりとサポートしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



現代教育学科
学校教育コース1 回生担任
(1 回生学校教育コース代表)

八木 義仁

新しい環境になじむまでの間は、誰にとっても迷いや悩みはあるものです。今年の1回生もそんな時期を過ごしてきたようだとこのことを面談で確認しました。面談の時には、もうすでに過去形になっている学生が多く、何年も友だちであったような関係を作っているようです。担任としては喜ばしいことですが、まだ心のどこかに不安を抱きながら通学している学生がいるかもしれないという思いをもって、関わっていききたいと思います。表面的なことだけでなく、心の奥底から安心して通学できるよう、ともに歩みます。



現代教育学科
学校教育コース1 回生担任
石川 裕之

入学直後の緊張も解け、学生たちは充実した大学生活を送っています。将来の夢をしっかりと持っている学生が多いので、今のところ進路についての悩みはあまりないようです。目下の心配事はやはり、大学に入って初めて受けることになる定期試験のようでした。今後精一杯学生の学業・生活面のサポートをしていきたいと思っておりますが、学校外での生活についてはどうしても目が届かない部分が多いので、保護者の皆様におかれましてはぜひご家庭でのサポートをお願いしたいと思います。何かありましたらお気軽にご連絡ください。



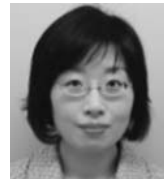
現代教育学科
学校教育コース1 回生担任
島 恒生

1回生の学生は、いくつかの選択肢ももちつつ、進路を自分なりに考え、勉強も頑張る、自分の力で進路を実現していこうという思いをしっかりともっています。大学4年間に、色んな経験や勉強をして欲しいと思います。特に、多くの人と出会い、それぞれの人の生き方に学ぶことで、そこから、自分らしい生き方を創っていくことができます。日々の生活の中にある、小さなことへの感動や感謝を大切にしながら、4年間を過ごしてくれることを期待しています。



現代教育学科
学校教育コース1 回生担任
深田 将揮

「教員になりたい!」と夢を持ち、実現に向かって、日々勉強にサークル、ボランティア活動やアルバイト等に忙しくも、充実した生活を送っている様子が面談を通してわかりました。高校時代とは、また違った生活スタイルになり、精神面の変化等に対応できている気にはなっていますが、授業や学内で言えば、積極的に声掛けをし、学生の表情や様子の変化には敏感に反応しております。もしご家庭で気になるようなことがございましたらお気軽にご相談いただければと思います。



現代教育学科
学校教育コース1 回生担任
宮村 裕子

今年の一回生は、非常に意欲的な学生が多いと思います。当初は、大学生活への期待と不安、進路に向けた強い気持ちや迷いが感じられましたが、今では廊下でSurf face (タブレットP C) を片手に挨拶してくれる学生もいて、まぶしく感じます。また、不安や迷いのある学生には、面談期間以外でも気軽に相談に乗るようにしています。

困った時一人で抱え込まず、自分から質問や相談をするなどして大学の様々な環境を主体的に活用しながら充実した大学生活を送れるよう、見守っています。ご家庭におかれましても、ご指導ご支援のほどお願いいたします。



現代教育学科
幼児教育コース1 回生担任
(1 回生幼児教育コース代表)

大城 愛子

面談では、多くの学生が大学生活に慣れて楽しく毎日を送っていると答えてくれたので、まずはほっとしたのが正直なところでした。ただ、幼児教育コースでは小学校教員免許や特別支援学校教員免許も取得可能なことから、免許・資格をどのように組み合わせるかで迷っている学生もいます。取得を希望する免許・資格が多くなると、授業や実習の負担も大きくなりますので、今後の学習状況を見守りつつ、本人の意思を尊重しながらサポートしていきたいと思っています。保護者の皆様には、今後も温かい見守りとご支援をお願いいたします。



現代教育学科
幼児教育コース1 回生担任
(1 回生担任代表)

三好 環

担任面談や授業を通して、学生からは「大学が楽しい」、「職域に来てよかった」という声が聞かれ、表情からも充実した日々を送っている様子がうかがえます。進路に関しては、憧れていた仕事にまっしぐらに進もうとする学生もいれば、まだ1回生ということもあって、じっくり考えたいという学生もいます。より納得のできる進路選択となるよう、こうした学生の思いや迷いを保護者の皆様と共に教職員一同で支えていきたいと思っています。



現代教育学科
幼児教育コース1 回生担任
横山 朋子

前期の面談では、多くの学生さんから大学生活にも慣れ、サークルやクラブ活動等いろいろな活動に積極的に参加しているとの声を聞くことができました。また、高校時代との違いに戸惑いながらも講義や課題に真剣に取り組んでいる様子もうかがうことができました。初めての前期試験も一生懸命取り組んでいるようです。

担任として、一人ひとりの成長、夢の実現に向

けてしっかりサポートしていきたいと思います。保護者の皆様におかれましても、ご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



現代教育学科
保健教育コース 1 年生担任
(1 年生保健教育コース代表)

岡本 啓子

入学して早、前期日程の終わりに近づいてまいりました。学生の皆さんは、それはそれはステキな笑顔で挨拶してくれています。面談において、大学生活が楽しいと語ってくれていたことが確認できます。授業の受け方が分からないと不安を打ち明けてくれた人もいました。今は心構えも出来、学びを進めていくことが出来ています。担任として、努力している姿を傍で見える幸せを感じることは嬉しい限りです。今の気持ちを大事に、目の前の課題を丁寧に一つずつ成し遂げる姿勢を持ち続けられるよう、担任として支えていきたいと思っています。



現代教育学科
保健教育コース 1 年生担任

中城 進

何かに成ろうとして、必死に頑張っている 4 年生の姿が見られる。このような上回生の姿を見て、将来の自身の在り様のことを思い悩み、考えている学生もいる。勉学に精進する上回生を見習って、夜遅くまで自習をする学生も出て来ている。しかし、全体的な傾向をみると、基礎学力が低い。特に、一般教養の力が弱い。まず、自身の基礎学力の不十分さを自覚できると、解決は早い。自身の将来（数年後の将来）を自身で構想し、企画し、実行計画を練り、実践する機会を持たせてやりたい。家庭においても「将来の自分」を本人に語らせて欲しい。



現代教育学科
学校教育コース 2 年生担任
(2 年生学校教育コース代表)

竹下 幸男

1 年生の時から大きく成長し、勉強はもちろん、課外活動やボランティアなど、忙しく充実した大学生活を送っている皆さんの様子を窺うことができました。自分の生活をしっかり自分で管理して、日々を過ごしている点に、特に成長を感じることができました。ほとんどの方は、1 年生の時に抱いていた目標を持ち続け、学び続けています。一方で、中には、自分の目標に疑問を抱き始めている方もいます。どちらの場合も、大学と家庭が協力し合い、将来の目標実現のためにお手伝いできればと考えています。



現代教育学科
学校教育コース 2 年生担任
(2 年生担任代表)

奥田 俊詞

入学してから 1 年余りですが、2 年生の姿や振る舞いを見て「ほんとうに大学生らしくなったなあ」という思いがわいてきます。インターシップへの参加や保育実習・教育実習のガイダンスなどを通して、卒業後の進路を現実的に考え始めたかなのかもしれませんが。これから 3 年生の後期にかけて学生は、将来について考え、自分と向き合い、時には悩むこととなります。でも、この悩みは彼らを成長させてくれる大切なものだと思うのです。私たちは、彼らがそれを自力で乗り越えられるように、保護者の皆様とともに必要な支援と応援をさせていただきたいと考えています。



現代教育学科
学校教育コース 2 年生担任

生野 勝彦

2 年生は学生生活の中で一番自由に過ごせる時期だと思います。学習はもちろん、クラブ活動やボランティアなどに取り組んで自分の引き出しをたくさん作って欲しいと思っています。それは後々自分にとっての財産になり、気持ちに余裕を与えてくれると考えからず。一方、生活の慣れがダレになってしまっている学生も見受けられます。大学に通える感謝の気持ちをもつことが本分である学習への集中に繋がると信じています。ご家庭でもサポートの程よろしくお願い致します。



現代教育学科
学校教育コース 2 年生担任

小谷 恵津子

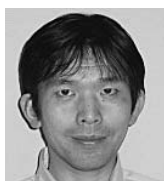
前期個人面談では、「今の自分にできること、やるべきことは何か？」を考えている姿が印象的でした。インターンシップやボランティアなどで社会と直接関わる機会をもったり、海外語学研修に参加して自分の世界を広げようとしたりと、それぞれが積極的に学生生活を送ってくれています。しかし、真剣に考えるが故に、迷いや悩みも多いようです。2 年生という学年だからこそ、失敗を恐れず試行錯誤し、納得のいく答えを見つけてくれることを願っております。一人ひとりのひたむきな頑張りを、担任としてしっかり支えていきたいです。



現代教育学科
学校教育コース 2 年生担任

大久保 賢一

大学生活にもすっかり慣れ、充実した毎日を送っているようです。しかし、そろそろ進路のことなどで迷いや不安を感じ始めている者も少なくないようです。今、彼らは急激に「大人」になることを求められているのであり、様々な選択を強いられつつあります。その中で戸惑いや悩みを抱えることはとても自然なことです。自分の成長や進路に対して真摯に向き合っているのだとポジティブに評価していただきたいと思います。どのようなことでも気軽に教員に相談するよう促していただければ幸いです。



現代教育学科
幼児教育コース 2 年生担任
(2 年生幼児教育コース代表)

永瀬 泰一郎

幼児教育コース 2 年生の前期では試験と共に提出課題が多くなります。授業外学習としての振り返りや発展的学習を求められることがありますが、提出期限を守りながらコツコツと努力している姿が見られます。この夏、8 月・9 月には保育所と福祉施設での学外実習に参加します。実習では社会人としての自覚が求められます。楽しい出会いと、様々な困難とを実感することでしょうが、ひとまわり成長することを願っております。ご家庭でのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



現代教育学科
幼児教育コース 2 年生担任

辰巳 智則

クラスに学生には、インターンシップやボランティアを重ねてきた先輩の姿に理想を合わせ、「私もそうになりたい」という想いで学生生活を過ごしている者が多いです。学生生活の出口に近い 4 年生に対する面接で感じるのは、個々が成してきたこうした経験の振り返りがもたらす意味の重要性です。学生は、その時その場の経験に相互的に関わっているかという、必ずしもそうではありません。自身にとって貴重な経験であるはずが、内省なく、自身の成長

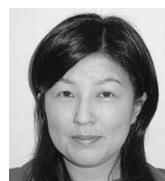
に跳ね返ってきていない場合もあります。ご自宅と共にされる時間がありましたら、彼/彼女らの話により多くの関心を向けて頂けますよう、よろしくお願いいたします。



現代教育学科
幼児教育コース 2 年生担任

小野 尚香

1 年余りの時間が過ぎて、クラブやサークル活動に取り組んできた学生は、責任ある役割を担い始めているようです。夏の学外実習を目の前に、将来の姿を見据えて、課題に取り組む学生の真剣な姿も多くみられます。また、入学のころの希望進路だけではなく、新たな自分の未来を模索しはじめた学生の声も聞くようになりました。学内外での学びを積み重ねて、個性を伸ばし、少しずつ自信をつけていけるように、支えていきたいと思えます。保護者のみなさまには、引き続き、ご支援ご協力をいただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。



現代教育学科
保健教育コース 2 年生担任
(2 年生保健教育コース代表)

古川 恵美

2 年生は多くの専門科目を受講するようになります。入学時から卒業後の進路をはっきり抱いている学生が多いため、すべて吸収しようという意欲にあふれています。その一方で、これが本当に自分にあった進路なのだろうかという人も出てきます。積極的に学んでいるけれど、他の人より理解できていないのではないだろうかというような悩みが迷う一因になっているようです。担任として支えていきたいと思っていますが、ご家庭のチカラにまसरるものはありません。夢を叶えるための努力をしているお子様の支えとなっていられるようお願いいたします。



現代教育学科
保健教育コース 2 年生担任

渡邊 健治

1 年生の時には、希望に胸ふくらませて入学した畿央大学、その毎日の大学生活が楽しくて楽しくて仕方がないとほとんどの学生が話してくれました。2 年生になり、専門科目が多くなり、おそらくご家庭でも話されているのではないかと思います。毎日が大変なようです。学生によっては養護教諭から企業を含めての進路変更を考えている学生さんまでありました。大学で学ぶことによって自分の希望が明確になってくることは大事なことですし、そうした進路を支援できるように担任として努力していきたいと思っています。

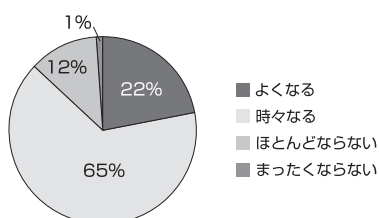


保護者アンケートQ&A

今年度も保護者アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。今回の特徴とお寄せいただいたご意見、ご質問の主なものについてまとめさせていただきました。

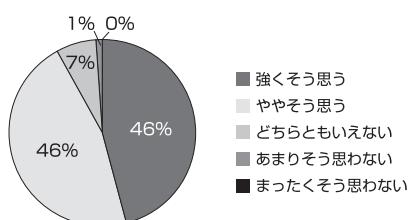
「畿央大学のことが家庭で話題になりますか」という設問に「よく話題になる」「時々話題になる」と回答された方は、87%にのぼり、昨年を1ポイント上回りました。この回答を学年別に見ると1回生92%、2回生86%、3回生82%、4回生83%となっています。入学直後の1回生はさすがに高いですが、その後上回生に進んでも80%という高いレベルを維持していることがわかります。

畿央大学について、家庭で話題になるか



「学生は畿央大学での生活に充実感を持っていますか」という設問についても「強くそう思う」「ややそう思う」と回答された方が92%となり、昨年を2ポイント上回りました。こちらも学年別にみると1回生91%、2回生94%、3回生92%、4回生92%と非常に安定して高い結果が出ています。

畿央大学での生活に充実感を持っているか



これらの結果は、学生とご家庭そして大学の関係が全体としては、非常に良い状況にあることを示していると思われます。学生の夢の実現をサポートしていくために一層良い関係を深められるよう努めていきたいです。

Q 卒業生や進路先の方々の話はとても新鮮で刺激を受けるようです。そういった機会が増えればと思います。

A 本学では、1回生から順次、キャリア形成系の科目、一部の専門科目、キャリアセンターの講座などで、卒業生や病院、企業、学

校などの現職の方に来ていただき、現場の生の状況をお話しいただいて学ぶ機会を多数設けています。また、実習を経験した上回生との交流ができる授業や機会を設けるなどの取り組みも進めています。学生の重要な学びの機会として今後もさらに充実を図ります。

Q 国際化の時代、大学での英語教育に力を入れてほしいと思います。実用的な英語力が身につく環境づくりをお願いします。

A 1回生必修科目の「英語コミュニケーション」では、授業方法を刷新しました。身につけるべきポイントを技能・レベルごとにまとめた「Kio Can-Do List」を作成し、各回の授業目的を明確化しました。授業後には学んだことのまとめや今後の自己目標などを各自が「ランゲージポートフォリオ」に入力し、教員がチェックしています。また、TOEICを意識したe-learning教材を授業外自主学習用に準備しており、進捗状況を成績評価に加えることで取り組みを励ましています。短期語学留学は、従来の夏期4週間のプログラムを2週間に再編成し、今年度は過去最多18名の参加となりました。さらに春期2週間のプログラムも計画しています。資格系科目が多いカリキュラム上、英語系の科目やプログラムを多く開設するには一定の限界もありますが、今後も英語教育の一層の充実を計ります。

Q 交通機関の遅延で授業に遅れた場合でも出席の扱いにしてもらえないと聞きました。なぜなのでしょう。

A 本学では、授業時間数（通常15回）の3分の2を超えて出席すれば定期試験を受験でき、3分の1までの欠席では不利にならないことから、交通遅延を理由とした欠席を出席にする扱いはしていません。ただし、科目によっては受講態度が成績評価の一部となっている場合がありますので、こうした場合には、「欠席連絡届」を提出することで、担当教員に事情を伝えることができるようにしています。なお、定期試験の場合は、交通遅延による欠席は、追試験の対象となり、試験を受けることができません。

Q 学生対象の就活や進路の選択にかかわる説明会などの情報をもらえれば、親子での会話の機会を作りやすいと思います。そうした情報の提供はしていただけないのでしょうか。

A 年に2回（春秋）に「保護者プレス」を発行し、自宅に送付させていただいてお

ります。就職のスケジュールや就職関係の行事予定、就職実績、内定をした学生の声など、各種の情報を掲載しています。また、学園祭の時期に、保護者向けに「企業就職説明会」「教員採用試験説明会」を行っています。ぜひご参加ください。また、進路や就職等についてのご相談はキャリアセンターで受け付けております。

Q 大学のうちに卒業後すぐに直面する社会保険や税金などの制度についても学ぶ機会を作ってほしいと思います。

A 3回生から年間を通して「就職ガイダンス」を実施しています。その中に「意外と知らない社会人の常識」というテーマでガイダンスを2回（90分×2）行っています。主な内容は、年金や社会保障、給与、生活設計、労働法についてなどです。社会人になりすぐに必要な知識や情報ですので、今後もガイダンスや面談を通して学生に伝えていく予定です。

Q 喫煙習慣を持たないということは、将来、医療・教育に携わる者として常識だと思います。そういったことも専門職に就く前に教えていただきたいです。

A 1回生の必修科目の中で、喫煙の危険性や他者への影響の問題などを取り上げ、将来、健康と教育の分野で働く者としての姿勢を教授していますが、残念ながら学科により2～5%の喫煙者がいるという状況です。引き続き禁煙指導、教育を強化してまいります。ご家庭でのご指導もよろしくお願いいたします。

Q 一部の学生のマナーが気になります。登下校時の自転車の二人乗り、右側通行など、小学生が見ているかもしれない道路で教育学部のある大学の学生が行っているのが残念です。

A 前期、後期それぞれの開始時開講前に行われるオリエンテーション時に交通マナーの問題は必ず指導するようにし、1回生に対しては、警察の協力も得て交通安全講座も設けています。6月から改正された道路交通法の自転車に関する内容も周知し、近隣の住民の方からの苦情があれば、メール等で注意喚起しています。さらにきめ細かく指導をいたしますが、ご家庭でも交通安全のご指導をいただきたいと思います。

Q 食堂のメニューについて、値段や味、ボリュームの見直し、おしゃれなカフェメニューなど検討してほしい。

A 今年度は、食堂改善プロジェクトを教職員と畿友会（学生自治会）の代表で構成し、メニューの見直しの提案を委託業者に求めるなどの取り組みを進める予定です。今後もよりよい食堂となるよう定期的な取り組みを進めていきます。

第13回 畿央祭 テーマ：瞬(またたき) 2015年10月17日(土) 18日(日) 10:00 ~ 18:00

今年の畿央祭のテーマは「瞬（またたき）」です。

畿央大学の学生は、勉強・サークル・部活動に励む中で仲間と支え合い、笑い合い、時にはばつかり涙することもあります。そんな光輝く日々も大切ですが、一味違うのが畿央祭。2日間という瞬きをするのも惜しい一瞬に学生たちはそれぞれの思いを託します。今年は、みんなで力を合わせてすべての人の心に残るような畿央祭を目指し、『一瞬を一生の思い出にしたい』と思い、このテーマにしました。

今年は【みんなでつくりあげる】というのをキーワードにしています。担当部署を越えた助け合いができる体制なども工夫して194名の実行委員全員の力を集めて取り組みます。

一人ひとりの個性ある光を一瞬に託し、思わず笑顔になる明るい畿央祭にしたいと考えています。ぜひ、お越しください！

第13回畿央祭実行委員会



授業日カレンダー

注：補講はふだんの授業曜日・時間に限りなく6時限目や土曜日、祝日などに実施される場合があります。
※印のついた日はキャンパスに入ることできません。■は休講日

9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
日曜	事項	日曜	事項	日曜	事項	日曜	事項	日曜	事項	日曜	事項	日曜	事項
1火	前期成績・後期学納金振込票発送	1木①		1日	指定校推薦入試 ※	1火⑨		1金	元日 ※	1月⑮		1火	
2水		2金②	履修登録変更受付	2月⑤		2水⑩		2土	※	2火⑯		2水	
3木		3土②		3火	文化の日	3木⑩		3日	※	3水⑯		3木	
4金		4日		4水⑥	履修取消期間	4金⑩		4月		4木⑯		4金	
5土		5月②		5木⑥	履修取消期間	5土⑨		5火⑫		5金⑯	授業期間	5土	
6日		6火②		6金⑥	履修取消期間	6日		6水⑬		6土⑯	授業期間	6日	
7月		7水②		7土	公募推薦入試	7月⑩		7木⑬		7日	大学院入試	7月	
8火		8木②		8日	公募推薦入試	8火⑩		8金⑭		8月⑯		8火	
9水		9金③		9月⑥		9水⑪		9土⑬		9火		9水	
10木		10土③		10火⑥		10木⑪		10日		10水		10木	一般入試
11金		11日	AO入試 ※	11水⑦		11金⑪		11月	成人の日	11木	追建国記念日	11金	
12土		12月③	授業日(体育の日)	12木⑦		12土⑩		12火⑬		12金	再試験期間	12土	
13日		13火③		13金⑦		13日		13水⑭		13土		13日	
14月		14水③		14土⑥		14月⑪		14木⑭		14日		14月	
15火		15木③		15日	公募推薦入試	15火⑪		15金	補講日(試験会場設営)	15月		15火	
16水		16金	畿央祭準備	16月⑦		16水⑫		16土	大学入試センター試験 ※	16火		16水	卒業式リハーサル
17木		17土	畿央祭	17火⑦		17木⑫		17日	大学入試センター試験 ※	17水		17木	卒業式・卒業パーティー
18金	前期卒業式	18日	畿央祭	18水⑧		18金⑫		18月⑬		18木		18金	
19土		19月	クリーンキャンペーン補講日(午後)	19木⑧		19土⑪		19火⑭		19金	一般入試	19土	
20日	AO入試大学入試※	20火④	後期学納金納入期日	20金⑧		20日		20水	補講日	20土		20日	春分の日
21月	敬老の日	21水④		21土⑦		21月⑫		21木	一般入試	21日		21月	振替休日
22火	国民の休日	22木④		22日		22火	補講日	22金	一般入試	22月		22火	
23水	秋分の日	23金④		23月⑧	授業日(勤労感謝の日)	23水	天皇誕生日	23土⑭		23火		23水	
24木		24土④		24火⑧		24木	補講日	24日		24水		24木	後期成績・次年度前期学納金振込票発送
25金①	授業開始	25日		25水⑨		25金⑬		25月⑭	一般入試	25木		25金	
26土①		26月④		26木⑨		26土⑫		26火⑮		26金		26土	
27日		27火⑤		27金⑨		27日		27水⑮		27土		27日	
28月①		28木⑤		28土⑧		28月		28木⑮		28日		28月	
29火①		29木⑤		29日		29火	※	29金⑮		29月		29火	
30水①		30金⑤		30月⑨		30水	※	30土⑮				30水	
		31土⑤				31木	※	31日				31木	

冬木学園への ご支援のお願い

学校法人冬木学園は創立以来「徳をのばす、知をみがく、美をつくる」という建学の精神のもとに、たゆまぬ教育活動を行ってきました。現在は、大学院、大学、高校、幼稚園を有し、昨今の厳しい教育環境のなかでも、社会的評価は年々高まっています。このように冬木学園が発展してこれきたのも保護者の方や卒業生をはじめ、学園を支えてくださるみなさまのおかげと厚く御礼申し上げます。

来年度には、創立70周年を迎えますが、これからも社会のニーズに応え、学園の評価を更に高めるためには、教育・研究活動の充実や学生・生徒への奨学金制度の充実など、より多くの資金が必要になってまいります。つきましては、冬木学園の建学の精神に賛同しご協力頂ける皆様方に寄付金を募集させて頂きたくご案内申し上げます。

◎ 寄付のお申込方法

法人事務局総務部（担当：植村・竹本）にお問い合わせ下さい。

TEL：0745-54-1602

E-mail：soumu@kio.ac.jp

◎ 税額控除の適用について

本学園は、寄付税額控除制度の適用を受けることのできる学校法人として文部科学大臣より証明されています。個人の方が支出した寄付金について、確定申告時に税額控除制度の適用を受けることができます。詳しくは、お問い合わせください。

